
幽霊にあった人

メロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幽霊にあつた人

【Nコード】

N8371R

【作者名】

メロ

【あらすじ】

アレは幽霊だよね、うん。俺的にはアレ出来ればいいだけなんで、アレしてもらったのは感謝的なアレはあるよね。今まで幽霊を、軽視してたんでね。ぶっちゃけ色々あったけど、世間的についていかな。まあ、俺は俺でまだまだ頑張りますよ。幽霊がいるなしは、そのときのアレだからね

一人でもアレはあるし、いいんじゃないですかと。

事件記者は、このフエ舐め町で起こる事件をなんでも取材して記事にします。

今日は、幽霊を見たおじいさんの取材にやってきました。

「こんにちわ。あなたが幽霊を見たと言うおじいさんですか？」

「ぶっちゃけ、幽霊を見たかどうかはまあ、こんな形で言えるのかって思うよね。幽霊を見たかって言われれば、それは無くは無いよね。本能のアレでアレして見てしまったなら、それはもうそういうアレですよ、もうひと頑張りのね、エールを送りたいよね。幽霊の方の事情がアレだし細かい情報もわからないから、なんともコメントしづらいアレはあるけどね。取材は甘んじて受ける、ただね、幽霊を見たかどうかでことになると、それは見ている人に判断してとか、そういうアレがね。ありますか？といわれれば ありませんよといわざる得ないアレはあるという部分は伝わってほしいよね。うん。判断してもらえばいい」

「あの・・・つまり。幽霊を見たんですよね？」

「ズバリ言つて、コンディションもいいんじゃないか？ウン。まず、幽霊を見た人物を取り上げた時点で、時代を読み切れていないというか。ハッキリ言つて努力が足りないんじゃないの？そう言うニュースを取り上げるって言うのは、俺的にはせつかくだからじっくり考えたらいいのって思うよね。結局、アレはそういう所にやつぱり行き着くんだらうけど、やつぱり幽霊のそれと俺のアレはまた違うわけだね。っていうのは曖昧な言葉で、要は、具体性はないけど何か考えてはいますという意味だよ。ウン。俺的にはそういう所で出した結論というか、そういうアレなわけだからね（笑）」

「アレ！？幽霊にはあったんですよね・・・最初に幽霊にあった時間って思いました？」

「世間的にはどうかはわからないよ。わからないけど逆に俺的には

確信みたいなものはあるよね。アレが区別つかないのと同じで、このアレも区別つかないからね。ぶっちゃけ、そういう時にアレするような救世主が出てくるか来ないかって言うと、出てこないわけだけど、難しい所だよね、正直言っただけ。」

「幽霊を目の前にしてどうしました？」

「あー何か、最初に良いのもらって。こうバーンって…記憶飛んじやって…後半よく憶えてない。気力だけで、やってたっーか…ストップかけましたよ、と。そういうアレに関してはきっちりやってくれるわけだからね。」

「いきなり幽霊が襲いかかってきたんですか？」

「幽霊がいきなり襲いかかってきたことについてきかれてもね、正直アレっていうのはあるよね。俺的にはまあ。お、やってやろうかという、それはあるよね。だからやるなら俺はやるわけだしね、うん。だんだん、アリかな、と思えてきたよね。」

「幽霊が襲ってきた時、恐怖感はありませんでしたか？」

「はつきり言っただけ恐怖という気持ちが無いといったら嘘になるよね。やっぱり意識はするよね。というかね。突然襲ってくるって言われて、気が抜けないよね。幽霊をまったく怖がらないと言うスタンスでは幽霊を裏切る結果になるだろうし、それは襲う側であっても、襲われる側であってもね。逆もまた然りだよね。幽霊を満足させられるという志は忘れたくは無いよね。だから幽霊に対する恐怖について、これは当然無視できない部分があるし。意図的な恐怖と言われどもね、やはり俺としても譲れない事情、信念というのはあるし、勿論改革すべきところは変えつつもね。幽霊を怖がる用意はあるよね。」

「怖がった、あなたを幽霊はどうしたんですか？」

「逃げようとした時にね、これはもう仕方の無い事ではあるんだけど、足がすくんだといかね。ガチで暴れるしか道がなかった、っていうね。見せつけるためにも…みたいな、ね俺からしたら幽霊は怖い部分というかね、一丁やろうかと言う意味合いでね、そういう

時にね、はい逃げました、追いかけてしょうか、幽霊から逃げろっていう。こういう一連の流れをね、流れっていう意味ではもうね、その時点から。もうそうすると俺なんか、じゃあこの野郎、幽霊から逃げるぞって気持ちがね、どうしても出て来る訳。でも、幽霊から今すぐ逃げるとね、そういきなり言われてもね、こちらとしても、「はい、そうですか」って受けるわけにもいかないんでね」

「逃げようとしたけど足がすくんで動けなかったってことですか・・足がすくんで動けないあなたに幽霊が容赦なく襲いにかかる！そこであなたはどうしたんですか？」

「どうしたって言うのもね、どうしてもって言うなら。うん。ただね、これは本当、譲れるか譲れないかみたいなね、そう言う話になった時にさあ、やっぱりねって事になるよね、実際。結局のところ皆さんがガチを要求している以上、俺はガチを提供しますよ、と！じゃあ具体的にどうこうって事になるとね、自然と。そういう意味ではね、あれを幽霊とっていいのかって言う。疑問って言うと言い過ぎな部分も出て来ちゃうけど、幽霊と言うか、鏡に映った自分自身かなって思うよね」

「おまえかよ！？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8371r/>

幽霊にあった人

2011年3月22日19時55分発行